

母校の中学校での 3 週間の教育実習を終えて、振り返ってみると後悔していることもあるが、非常に実りの多い実習となり充実した 3 週間であった。実習が始まる前、3 週間は長いものになるかと思っていたが、毎日学びを得ることができ、密度の濃いものとなりあっという間に実習が終わってしまったと感じる。

まず、教科指導に関しては特に多くの発見や失敗があり、英語科の教員を志望する者として多くの学びを得ることができたと思う。まず、私が母校の中学校の生徒であった時の英語の授業と、実習期間中に見学した現在の授業とを比較し、相違点を感じた。一つ目は、授業中の ICT の使用である。発音や音読練習用の音声ファイルを添付したパワーポイントを教員が利用していたり、生徒はタブレットを利用して活動に取り組んでいた。公立の中学校にも関わらず、タブレットを利用して活動する生徒の姿に私は驚いた。さらに私が驚いたのは、その使用法である。4 人グループを作り、さらに 2 人組のペアに分かれ、教科書本文を交互に音読する姿を残りの 2 人組のペアがタブレットで撮影して録画していた。自身の発音やイントネーションを客観的に確認することができる上に、生徒全員が楽しみながら授業に参加する姿を見ていると、ICT 導入のメリットを実際に見ることができた。私が生徒の時にはなかったものであり、現在の英語教育を体験できたことは大きな経験となった。

さらに、英語科学習指導要領が目指すアクティブラーニングの姿も随所に見ることができた。私が生徒であった時は、教員が板書しながら説明する時間が長く、生徒にとっては受動的な一斉授業であった。しかし、実習中に見た英語の授業は、教員が一方的に説明する時間が短く、板書の量や時間も私の時代よりも少なかった。生徒が能動的に授業に参加する時間の方が長かった。アクティビティや和文英訳などの活動が有効であったと感じた。よって、生徒の表情を見ていると授業を苦痛に感じるような表情の生徒は少なく、有意義な学びができていたと私は感じた。英語科教育法でアクティブラーニングという用語を学習したが、この度の実習で実際に見ることができて非常に有意義であった。

他に印象に残ったこととして、文法を説明する時間は減ったものの英語の語順をかなり強調して指導していた授業が多かった。様々な先生方の授業見学をしたが、日本語との語順を比較しながら英語特有の語順を何度も繰り返し言及しながら和訳・英訳や本文読解に取り組んでいた。英語でコミュニケーションをする上で重要な語順については念入りに講義する先生が多かった。

最も学べた点はアクティビティの考案に関してである。私が 1 枚目の指導案で考案したアクティビティには本時の授業でアクティビティを行う必然性がなく、状況設定がないと評価を受けた。また、生徒全員が確実に参加できるようなアクティビティではなく、アクティブラーニングの趣旨からそぐわないものであった。私は担当教員のアドバイスを受け、アクティビティを行う上で重要なことは、合理的な状況設定と必然性があり、生徒全員が参加できることであると知った。単に楽しい活動であれば良いと私は解釈していたので参考になった。

発見もあれば失敗もあった。まず、授業を行っている時の体感時間がかなり早く、授業時間が足りないと感じることが多かった。ストップウォッチを利用しながらアクティビティを行っていても、生徒の質問に答えたり、不慣れた板書をゆっくり書いていると指導案で予定していたことが終わらずに授業が終了してしまった。タイムマネジメントができていなかった。

もう一つは、私の授業にはエリシテーションが欠けていた。新出のことは丁寧に指導しよう、という意志からその単元での文法事項や新出単語などを授業の展開の最初の部分で先に説明してしまい、知識をたたき込ませるような授業になってしまった。生徒が能動的に新しいことに気づき、誤りを通して学習する機会を奪ってしまっていたのである。アクティブラーニングが目指す授業ではなく、塾や予備校などの講義チックな授業となってしまう、必然的に話す時間も板書の量も多くなってしまった。このような授業を今後改善していかねばならない箇所である。

教科指導以外の面では、生徒会活動、学級活動、部活動に参加させてもらったが、英語科教育にも関連することだが、私の時代より生徒が自ら考えて行動する生徒主導の活動が増えていると感じた。教員はその補助であり、集団のために個人が何をできるかを常に教員は考えさせているだけであって、「～しなさい」と押しつけるような指示は少なかった。

教員の立場から、現場の先生方の校務などを拝見したが、一人あたりの仕事量があまりに多く常に忙しいという状態の先生方が多かった。授業準備以外にも事務作業や部活動の指導などの仕事があり、教員の働き方改革が行われつつあると言いつつも、あまりにも仕事が多いと感じた。

非常に学びが多い実習となったが、生徒一人一人とあまりうまく関われなかったことは後悔している。生徒に何を話したら良いか分からず、授業外でコミュニケーションがうまく取れなかったり、昼休みや放課後は授業準備に費やしてしまったので、授業以外で生徒と関わることができなかった。この点は実習を終えた今でも後悔し、反省している。

この3週間で得られた学びや反省は教育実習を行ったからこそ得られたものであり、今後教員採用試験に合格し教員として正式に採用された後でも、必ずこれらの経験を活かせるようにしていきたい。